

10月末に2日間かけて、コミュニケーションや問題行動に対するアプローチ（応用行動分析の概念や、効果的な結果を出している研究によって確証されたプログラム）をスタッフ全員で学びに行ってきました。

子どもたちにスキルを教えるためには、人間の発達や行動原理から学んでいく必要があります。

たくさんの刺激を受けて帰り、それをもとに実践をした11月……。まずはコミュニケーションについて見直しました。

私たちがコミュニケーションを教える時に意識している重要なスキルが2つあります。人へ大切なメッセージを伝える“**表出のコミュニケーションスキル**”と人から伝えられた重要なメッセージを理解する“**理解のコミュニケーションスキル**”です。

ぐんぐんの利用を開始するころには、何らかの形で要求（表出）することができるようになっていたため、「指示に従えるようになって欲しい」「待てるようになってほしい」といった理解コミュニケーションへのニーズを持って来所される方が多い印象です。

そこで、理解コミュニケーションへのアプローチ（「目で見てわかりやすく伝える」「見通しが持てるように伝える」など）を開始してみますが、それだけでは、子どもは思ったように変化をしていきません。それどころか、理解が高まった分、激しく泣いて拒否を訴えてきたり、それを回避したくてその場から離れてみたりと、子どもたちなりの表現で反応を返してきます。

子どもたちの要求は大人の想像以上に緻密であるはずなのに、正しく表出する術がないとしたら、それは上記のような強硬手段に出るでしょう。圧倒的に表出する力が足りないんだ（教えてこなかったんだ）と思いました。

そこで私たちは、個々のケースに当てはめて、子どもたちが日ごろ不適切な形で訴えてきていることはないだろうかと話し合いをしました。

プライバシー保護のため、画像を差し替えます。

例えば、あそびの終了を伝えると聞こえていないかのように振る舞う子
遊びに加えてもらおうとして近づくと、大きな声を出す子
初めて見る課題に反応して、離席をする子
「いやだ」と言って『さようなら』と書かれたスケジュールを投げたり、ゴミ箱
に捨てたりする子・・・などなど

リアクションの大小はありますが、こうした反応への対応は
過干渉しないことだけで良いのでしょうか？

表出コミュニケーションを教えよう！！

と学んだことは即実践に移しました。

その一例がこちら

「えんちょうしてください」カードです

あそびの終了を伝えると聞こえていないかのように振る舞う子に、「えんちょうしてください」と伝えられたら、時間を伸ばすからねと、カードを見せながらあらかじめ伝えておきました。

ところが、タイマーが鳴っても、すぐにはあそびを辞めようとしません。

カードに対して見向きもしません。

↓

あそびに後ろ髪をひかれている子どもの手をとって、カードに触れさせ、台紙からはがしてスタッフに手渡すことをサポートしました。

↓

受け取ったスタッフは「分かった。延長しましょう。」と、にこやかに答えます。

↓

えっ？いいの！？

あそびの時間が延長されて、子どもはご機嫌です♪

延長分のタイマーが鳴ると今度は、自分からカードに手を伸ばしました。それをはがして、スタッフに手渡し、延長してもらう、を繰り返します。(しかも、タイマーの音にはしっかりと反応していました(笑))

↓



その日のうちに正しいコミュニケーションスキルの獲得に成功しました。

(以降、タイマー音を無視したり、脈略のない話を一方的に始めて片付けの開始を遅らせた
りするような行動は一切しなくなりました。)

このように、子どもにとって便利なコミュニケーションは、本当に短時間で獲得していく
ことがよく分かりました。

行動上の問題を「理解」だけで補おうとしても、なかなか解決していかないことが、「表出」
を教えることで劇的に改善していく様をみて、理解と表出はきちんと両輪で教えていく必
要があるのだと再確認することができました。

遊びに加えてもらおうとして近づくと、大きな声を出して
いた子も「やめてください」カードをすぐに扱える
ようになり、今では身につけて持ち歩き、穏やかにお断り
できるようになりました。

伝えられない、伝わらないイライラが減ってくると、
遊びに集中できるようになったと思います。

勉強することは大変なことも多いけれど、そこで得た
情報は即支援に活かせる環境があり、それに応えてくれ
る優秀な子どもたちと、一緒に学んでくださる保護者の
みなさんがいるから頑張れます。

さあ今一度、子どもからの表出コミュニケーションを見直し、人に伝えて価値のあるものへ
と充実させて教えてみませんか？



ぐんぐんスタッフ K